



10月25日 講演の集い開催

今年は台風や豪雨被害が多発した年となってしまいました。その原因が今回の講演内容と密接に関連している「地球温暖化」だと考えられています。平成30年度講演の集いは、昨年好評で多数の方が来場されたのもあり、日本教育会館・一ツ橋ホールで行いました。こちらのホールは会場が広いのでゆったりと講演を聴くことが出来ましたでしょうか。

今回は、「環境問題を考える」をテーマに、パリ協定に関する映画上映・講演、そして処理技術研究会（通称：小野組）の取り組み発表の3部構成で行われました。



理事長

まずは、建設廃棄物協同組合島田理事長の挨拶で講演の集いが開幕致しました。続いて上映された映画は「不都合な真実2」です。これは2006年に上映された「不都合な真実」（アカデミー賞を受賞した秀作）の続編で、アメリカ元副大統領のアル・ゴアが気候変動（地球温暖化）問題に立ち向かうために世界を変えようと奮闘する姿を描いたドキュメンタリーです。



増井氏



休憩を挟み、国立環境研究所 社会環境システム研究センター（統合環境経済研究室）室長・増井利彦様より「パリ協定と日本の取り組み」と題して講演を戴きました。増井様はAIM（アジア太平洋統合評価モデル）の研究プログラムに御尽力され温室効果ガス削減政策を牽引しています。講演では世界の温室効果ガスが増加している為、パリ協定の具体的内容や、日本での目標（2030年までに25%削減「2013年比」）などが示されました。

そして最後は、建設廃棄物協同組合・処理システム委員会・処理技術研究会より、「建設混合廃棄物の選別残さと主な建設廃材における有機汚濁性の検討（第2報）」についての発表を行いました。今回の発表は、昨年の講演の集いにおいて発表した内容から、更に研究を重ねたものとなっており、先月行われた「第29回 廃棄物循環資源学会 研究発表会」において“優秀ポスター賞”を受賞した内容でした。



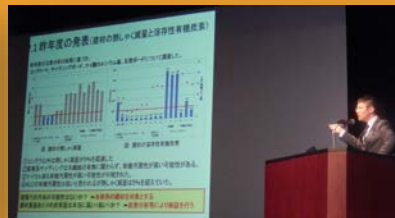


ちなみにふるい下残さとは、建設混合廃棄物の処理の過程で生じる残さで、環境省の指針により、管理型産業廃棄物として扱わなければならない、処理費用が高い廃棄物の一つです。まだまだ研究段階の途中ではありますが、引き続き、実態把握と製品開発に向けた研究を進めていきたいと思っております。



小野組 坂田

小野組 加古



[アンケート結果はこちら](#)



優秀賞をとったポスター

11月6日 自己啓発向上研修開催

雇用促進・雇用改善委員会の発案で、雇用2年から7年くらいの人を対象に、自己啓発向上研修会を開催しました。講師には松尾明氏を迎え、午前中はリーダーシップを発揮する6つの要素についてや、組織のリーダーを支えるフォロワーシップについてお話を伺い、コミュニケーションの大切さを学びました。



松尾氏

午後は聴く・伝える・質問力について実践しながら、リフレーミングという新たな視点での捉え方を学びました。

グループワークが多く、他社の人と課題に取り組むことで、より実感できる内容で楽しく学ぶことができました。



[参加者の感想はこちら](#)

